

4月から定期予防接種の対象になった子宮頸がんワクチンの「サーバリックス」について、厚生労働省は28日、説明文の重大な副作用の項目に急性散在性脳脊髄炎（ADEM）とギラン・バレー症候群が加わり、医療機関に注意喚起したと発表した。

販売開始から3年間でワクチンの副作用として、運動障害やけいれんの症状が出るA

### 副作用追加で注意喚起

は、ふ、じ

子宮頸がんワクチン

DEMは3例、手や足の筋肉がまひするギラン・バレーは5例あったと報告され、3月末時点で説明文が改訂された。死亡例はないという。この間、約273万人が使っている。

子宮頸がんの定期予防接種は小学6年から高校1年の女性が対象。別のメーカーのワクチンでも、この二つの副作用が説明文に記されている。